

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社 グループ 春の日		
事業所名	グループホーム 春の日		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティアケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・全職員、事業所理念である「ゆとり」の実践に向け、利用者本位のサービスが提供できるよう日々努力しています。</p> <p>・毎月、たくさんの行事活動を実施し、ご入居者様、職員共に楽しみながらの生活を送っていただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念である「ゆとり」は 職員も生活環境の一部として捉える。 主体制をもつ(見る・待つ・見極める) 居場所を感じてもらう 地域に溶け込み社会参加をする。の四つの指針から成り立っている。管理者と職員は、入居前からの生活を継続できることを大切に考え、日々実践している。地域の人々と交流できる行事に力を入れるほか、月毎のレクリエーション、外食会や寿司屋の出張などを行っている。建物内は十分な広さがあり明るく清潔である。廊下は、車椅子がすれ違ってもまだゆとりがあり入居者の歩行訓練の場でもある。業務ミーティングは全員が参加できる体制で行われ、職員全体の纏まりが感じられる。帳票類は丁寧に記録され保管されている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(チューリップユニット)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「ゆとり」という事業所理念を掲げ、日々意識しながら、実践につなげている。	事業所の理念「ゆとり」が地域生活継続の根幹であるとの認識を職員間で共有している。利用者との関わりに於いてユニホームを着用しないこともその表出である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域の夏祭り、敬老会等の際は必ず声をかけていただくので、その際は積極的に参加させていただいている。又、施設行事等の際には地域の方に声をかけさせていただき、民生委員、地域の子供達が参加してくださっている。	近隣の商店やご近所と顔みしりになって挨拶をしたり、頂き物をしたりする関係になっている。運営推進委員会に町内会長や民生委員に参加してもらい、地域との連携を目標としていきたいことを伝えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域方々の個々の来訪よっての相談等には積極的に応じている。今後は運営推進会議の中で情報発信ができて、地域に貢献していけたらよいと思う。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・H22年9月に実施することができ、2、3ヶ月おきにテーマを決め、実施できるようになっている。そこでの意見を毎月の業務ミーティングで全スタッフへ報告をしている。	管理者と職員は積極的に活動し多くの努力をしているが、運営推進会議については定期的に開催されていない。その理由として、家族や市町村の参加が得づらいことが考えられる。	家族、入居者、地域密着型サービスの知見者等出席者を再検討し、定期的に参加できるよう工夫する必要があると思われる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合わす機会がある為、何かと相談にのって頂いている。	障害者手帳の申請や医療の状況報告等で連携したり、相談にのってもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「身体拘束をしない」を基本方針とし、県主催の「高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修」に順次職員が参加し、施設内伝達研修を行っている。研修を定期的に行うことで職員も共通認識を持ち、日々の支援を行っている。	身体拘束は行わないことを重要事項に明記している。県や市が主催する研修に参加した職員を中心に勉強会を行っている。職員向けに身体拘束関連のアンケートを作成し、ホームの理念である「ゆとり」に対する気づきや見つけ直す機会を与えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・千葉県主催の「高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修」に順次職員が参加し、ホーム内で伝達研修を行っている。今後も日々の支援を振り返る機会を定期的に行い、職員相互で注意し合える環境づくりをしていきたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今年度、管理者が勉強会に参加し、「日常生活自立支援事業」と「成年後見制度」の施設内研修を行った。また成年後見制度を利用していた方が入居され、関係者と常時連絡を取り、情報交換を行うことで連携を図ることができた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施できている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・今年度より、千葉市介護相談員の受入れを開始。相談員来所時、情報交換を行い、入居者様の要望などを伺い、運営に反映させている。・ご家族へは春の日便り送付時に「ご意見・ご要望・ご感想」用紙と返信用封筒を同封し、普段面会に来られない方や意見を出しにくいご家族へ配慮し、手紙で意見を伺った。	介護相談員の受入れ開始により、入居者の意向、要望が聞き取りされている。家族の意見を把握する取組みとして、春の日だよりの送付時に「要望・意見・感想用紙」を同封し返事をもらうようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の業務ミーティング、個別面談等で意見を聞き、改善できる所は早急に改善できるように努めている。	定期的に開催されているミーティングは、全員参加により多岐にわたる意見集約の場となっている。介助方法の改善、福祉用具の活用、センサーの導入など具体的な改善に繋がっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場は管理者が作るのではなく、現場の職員が作るものとしている為、職員の個性、経験による実践を出せる場でもあるので、経験者、そうでない新人職員、共に創意工夫して働いていただいている。 ・介護処遇改善交付金を有効活用させていただき、手当て等の幅は少しは広くできている。 ・人員増員をすることよっての労働時間の短縮が急務である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・今年度より、新人研修の内容を充実させ、介護技術チェックリストなどを作成し、順次実施している。年次施設内研修計画を立案し、それに沿い実施している。介護技術や認知症実践者研修などの施設外研修にも順次参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・千葉市グループホーム連絡会等、に参加させていただいていることで、交流の場は設けられている。 ・近隣グループホームとの職員交換研修会ができていない為、是非実現したい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居後ご本人とコミュニケーションを密にし、信頼関係を徐々に作りながら、ご本人が生活する上で困っていることや不安、要望を伺い、施設側で対応範囲を検討し、できるだけその意向に沿うことができるように努め、安心して生活することができるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に困っていることや不安、要望、生活の意向を伺い、入居後には、ご本人の日常生活を報告し、徐々に信頼関係を作っている。また、相談などは随時受け付けていることを日頃から説明し、その都度対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼があった際には、現在の生活状況、サービス内容、何故グループホームの利用を希望されたのか？ご本人は納得されているのか？身体的状況にもより、本当にグループホームでよいのか？その他のその方に合ったサービスがあればご紹介、相談には応じるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は「介護者とご入居者」という立場ではなく同じ人であるという視点に随時振り返り、ご本人を尊重した関わりを常に意識をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居時にできる限り面会をお願いするだけでなく、施設とご本人、ご家族の3者の協力し、ご本人を支え合う関係作り随時説明している。年3～4回の春の日便りを郵送し、近況報告と意見反映の用紙を同封している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の協力を得て、ご友人に合うために外出したり、住み慣れた家に外泊をしている方がいる。面会は自由にしており、ご家族のみならずご友人が訪ねて来られたりしている。	入居前から通っているリハビリ病院や美容室へ行くために継続的な支援が行われている。家族や友人の面会も定期的に行われている。手紙を書く入居者には、投函に至るまでの一連の支援がされている。外泊にも力を入れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人一人のご入居者の関係性を把握、見守っている。難聴などで関わりが難しい方は職員が橋渡しをしたり、職員がコミュニケーションを図り、関わりを増やすことで孤立しないようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去をされた後も、その後の生活に不安等を感じているご本人、ご家族様からのご相談も積極的に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・3ヶ月毎のカンファレンスだけではなく、日々の生活で関わりながら、現在の生活や今後の生活の意向を引き出すようにしている。困難な場合はご家族に現状の生活を見てもらい、十分に説明した上でご本人の意向として何うようにしている。	日頃から本人、家族の意向の把握に努めている。申し送りノートを活用し入居者の様子観察、課題、気づきを記入し職員間で情報の共有に努め、日々検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前や入居後の面会時に随時、ご家族にこれまでの生活歴や環境、サービス利用を伺い、関わりやケアに生かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・24時間軸の日常生活表を活用し、それぞれのご入居者の一日の生活や身体状況を把握している。認知症によりご自身の身体状況を訴えることが困難な方は日々の生活ペースや行動などからいつもとの違いを観察している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月に一度介護計画書と施設サービス計画書のモニタリングを実施、再度計画をしているがご本人やご家族が参加する場は少ないため、今後は最低1年に1回参加して頂き、意見反映ができるように調整していきたい。	把握した入居者や家族の要望、カンファレンス等で出た職員の気づきや意見を取り入れて、介護計画を作成している。定期的なモニタリングも実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活だけでなく、認知面やご本人の言葉や行動について時系列で記録している。モニタリング時や日々のケア時に見直すことで、職員間の情報の共有化をし、ご本人の変化がわかるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人やご家族からの要望に関しては、随時相談を受け付け、通院介助や買物など柔軟に対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地区の盆踊りや敬老会のお誘いを頂き、参加している。民生委員の方は時折施設にきていただいでおり、関わりを持っている。ボランティアの受入れも随時行っており、施設内敬老会などで歌などを披露していただき楽しんでいる姿がある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院と訪問看護ステーションと医療連携体制を組み、月2回の往診と健康管理をお願いしている。また、体調不良時は随時相談できる環境を整えている。緊急時は訪問看護ステーションと連携し、病院と連絡を取ることができるようにしている。精神科などの他病院へかかる場合も随時相談、紹介状をお願いし、受診できる体制を整えている。	契約時に本人、家族の確認のもと、ホームの協力医をかかりつけ医とする入居者もいる。月2回の往診や訪問看護、リハビリを希望する入居者には整形外科の受診を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は日々の生活での体調などの変化を施設看護職員に伝えることで、施設全体の体調や内服管理、協力医療機関との連絡調整を行い随時必要な医療を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降も、ご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させていただき、その際は主治医の先生とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。ソーシャルワーカーとの情報交換も密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当施設における重度化や看取りの指針を定め、ご家族への説明と相談を随時行っている。その際には協力医療機関と施設、ご家族と3者で話し合う場を設け、グループホームでできることとできないことを丁寧に説明するとともに、ご本人、ご家族の意向を尊重した支援ができるようにしている。	入居時に入居者や家族に、書面で重度化、看取り、延命についての説明をし、どのように希望するか同意書を交わしている。往診医、家族、事業者との連携を図り、本人の意思を尊重した支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員は千葉県消防局主催の上級救命講習の受講をしている。急変や事故発生時の対応は電話の脇にフローチャートを掲げてあり、常時確認できるようにしており、それに沿って行動できるようにしている。職員はご入居者は高齢であることからいつ急変してもおかしくないという認識を持って観察をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練を消防署職員の立会いのもと行っている。今年度は夜間の想定で訓練を実施した。備蓄は2階に倉庫を設け、ミネラルウォーターや毛布などを備えている。まだ不足している物や近隣との協力体制が不十分であることが今後の課題である。	年2回の消防訓練を実施している。職員間では災害時の避難の方法、避難場所の位置を確認し、水や食料も備蓄している。消防署にDVDを借り、研修している。地域住民には民生委員等を通し、協力体制を働きかけている。	近日中に消火器を使用した消防訓練の予定があり、地域住民にも参加の呼びかけを予定している。近隣住民との連携が図れるように、機会あるごとにホームから働きかけることが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご入居者一人一人の個性を尊重し、人として人生の先輩として尊敬し、日々のコミュニケーションや関わりの中で十分注意しながら対応をしている。	職員一人ひとりが、入居者に対して人生の先輩として尊厳を尊重した対応に心がけている。トイレ誘導等でも、プライバシーに配慮している様子が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の思いや希望を受容し、否定することなく聞くことや自己決定を促すためのわかりやすい声掛けの工夫を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人の生活習慣やペースを大切にし、その時々に合わせて臨機応変な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人やご家族の意向を大切にし、ご本人の好みのものを身につけて頂いている。身支度が一人では難しい方は職員と一緒に選ぶ楽しさやおしゃれを楽しめるよう、関わりを持っている。 ・月に1度訪問理美容を活用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・カロリー制限や塩分制限、刻み食などの方がおり、当施設は厨房職員が調理している。食後の片付けは職員と一緒にやっている。 ・現在食事は職員と一緒に摂ることができていないが、今後は職員と一緒に摂る楽しさや今までの生活の中で行っていた調理での役割と楽しさを引き出すことができるように支援していきたい。	入居者の状態に応じて、後片付け、おやつ作りなど可能な限り参加できるように支援している。時には外食を楽しんでいる。	食事は入居者にとっても、大きな楽しみであるので、職員が同じテーブルに付き、同じ食事を一緒に楽しむことが望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の一日の水分と食事摂取量を把握し、体調管理に役立てている。食事の好みや今までの生活習慣を大切にし、配膳時間を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自分でできる方はそれぞれで行っていただいている。声掛けや介助が必要な方は職員が口腔内の観察をしながら、ご本人にできる所は行ってもらう、難しい所は職員が行うことがある。 ・週1回訪問歯科と連携し、口腔内の状態や口腔ケアのアドバイスを頂き、日々のケアに生かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人一人の排泄パターンを掴み、羞恥心に配慮し、パッド交換をご自分でできるように職員が支援をしたり、全介助の方でもできる限りトイレでの排泄をすることができるように検討、支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄ができるように、本人の意思を大切にしながら声かけ誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・当施設の特徴にもある長い廊下を生かし、運動を兼ねて歩行練習をする方や気分転換を兼ね散歩に出かけたり、毎朝ラジオ体操を行っている。 ・食事・おやつ・入浴後の水分補給のみでなく、居室でご自分の好きな時に飲むことができるようポットを使用している方もいる。 ・食材会社様に食物繊維の多い献立を考えてもらっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・原則、週3回の入浴が可能、入浴に対するご本人・ご家族の意向を確認したうえで回数や内容を決めている。 ・その日の体調に合わせて入浴日の変更も臨機応変に行っている。	入居者一人ひとりの意向に沿った入浴を実施している。湯の温度、入浴剤などの意向を聞き、湯の入れ替えをしている。2人介助が必要な入居者にも安心、安全に入れるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居前の生活状況をご本人・ご家族に伺いながら、一日の生活ペースを見守り、その時々に応じた休息をしていただいている。 ・眠れない時や不安を感じる時は職員が話を伺い、少しでも安心して眠ることができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各職員がご入居者一人一人の疾患と現在の治療状況を申し送りや看護師が記入する受診記録で随時確認することができるようにしている。 ・内服薬は事務所で一括管理し、内服時間ごとにセットされた内服薬を取り出し、ご本人に確認しながら内服している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人の生活歴とご本人・ご家族の意向を確認しながら、施設でも役割としてできることを行っている。 ・特に行事とレクリエーションに力を入れ、散歩や車で外出をしたり、施設内でも季節感を感じることができるよう、その季節に応じたものを取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩や買物の希望がある時には、できる限りその時に対応するように心掛けている。 ・外出や外泊の希望がある場合は、ご家族と相談し、可能な範囲でお願いをしている。	散歩、買い物の希望があれば臨機応変に対応している。事業所の駐車場は広く日当たりも良いので、職員が付き添って日光浴を楽しんでいる。菜園で作業する人もいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(チューリップ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・おこづかいの自己管理が可能の方はご自分で所持、管理をしている。自己管理が困難な人はご本人、ご家族とも十分に相談をさせていただき、施設で管理している。 ・買物時は社会性を維持するためにもその方の自己管理の状況に応じて職員が見守り、困難なことに対して支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話でご自身で電話をかけられる方もいれば、必要な支援を受けながら電話をかけお話しをする方もいる。 ・ご家族からの電話の取り次ぎはいつでも行っている。 ・手紙も同様。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は広々とし、ご本人に合わせてわかりやすい工夫を行っている。共用スペースの清掃を行い、清潔保持に努め、浴室は一人ごとに清掃、消毒し、お湯のはりかえをしている。 ・ご入居者とともに季節の花をプランターで栽培したり、毎月季節感を感じられる創作カレンダーをご入居者としょくいんとで一緒に創り上げている。	廊下は広く、車イス同士がすれ違うゆとりがあり、入居者の歩行訓練の場にもなっている。共用空間は全体的に広々として、明るく清潔で、居心地の良い雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングはいつでも誰でも利用していただけるように開放している。好きな時間にお一人で新聞を読んだり、大きなテレビで好きな番組を見たり、時々時代劇の好きな方が集まりDVD鑑賞をすることや、カラオケ好きな方はテープを聞きながら歌うこともある。職員と一緒にトランプやゲームをすることもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前にご本人とご家族へ相談し、入居時に使い慣れた家具等を持ち込んでいただくことができるようにしている。 ・新しい物を購入する場合は、ご自身の好みの物を一緒に選び、気に入った物、使い慣れたものに囲まれた生活を送ることができるように支援している。	居室には、使い慣れた馴染みの物を置いて、一人ひとりが寛げる、その人らしい生活の場になるように支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共用の空間(浴室、トイレ、廊下、階段等)には手すりを設置している。 ・ご本人の日常生活動作に合わせた福祉用具の活用を勧めるとともに、ご本人・ご家族と相談しながらできるだけ自立した生活を送ることができるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所